



國家圖書館編

東亞同文書院

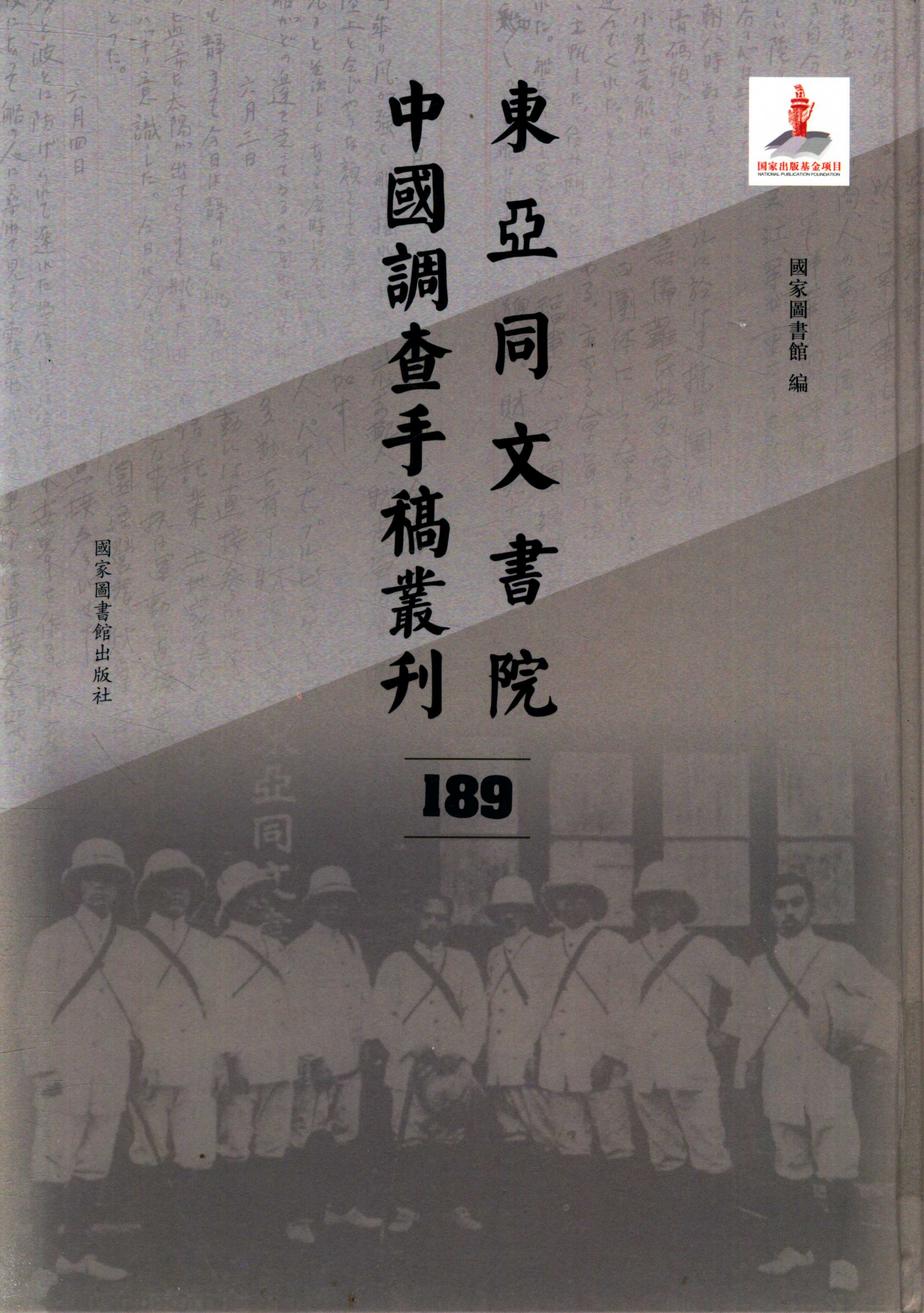
中國調查手稿叢刊

189

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日





國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

189

國家圖書館出版社

第一八九冊目錄

昭和十七年（一九四二）調查報告（第三十九期生）

都市の經濟的機能の分析（石門）

城市經濟功能的分析（石門） 石丸俊雄 真下九五雄 古本祝 溝上慶治

支那に於ける現在の政治建設狀況

中國目前的政治建設狀況 阿部弘

支那に於ける政治建設の狀況

中國政治建設狀況 坂本浩

北京を中心とした駱駝業の調査

對以北京爲中心的駱駝業的調査 西澤信男 中村益士 唐川博

一九一

一五九

一〇三

一

北京語補助動詞の研究

北京話補助動詞的研究

湊保

金丸一夫

宗方健二郎

絲谷禮輔

.....

二六一

天津舊英國租界

天津舊英國租界

廣長敬太郎

.....

三八三

新政權治下に於ける教育建設狀況

新政權管理下的教育建設狀況

山田靜夫

横田文真

大久保啟三

鵜飼達哉

杉山恭衛

.....

六〇九

昭和十七年度

大旅行調査報告書

都市の經濟的機能の分析——石門——

第九班

石丸 俊雄

真下 九五雄

古本 祝

溝上 慶治

東亞同文書院大學學生調查大旅行指導室

大旅行調査報告

都市の経済的機能の分析

石門

第九班

石丸俊雄

眞下九五雄

古本祝

清上慶治

大旅行調査報告

都市の経済的機能の分析——石門

目次

第一章 石門の一般的状況

一頁

一 概況

一

二 沿革

三

三 市街

五

四 人口

七

五 都市計画概況

八

第二章 石門を中心とする交通運輸状況

二頁

第三章	石門の石炭概況	四〇
第四章	石門を中心とする棉花の状況	四六
一、	市海	四六
二、	棉花の收買状態	五二
三、	棉花の消費状態	八一
四、	増産施策概況及将来の展望	八三

都市の経済的機能の分析―石門の部―									
一、概況									
石門市は今事変皇軍の奮戦地として有名な娘子関の嶺									
を境として華北の宝庫山西省に臨み太行山脉の冀中平原									
に展開する處京漢線の中樞石太、石徳西線の起點を扼し									
大黄河以北物資集散の門戸として隆々たる發展を約束さ									
れてゐる。									
地理的には北緯三十八度五分、東経百十四度三十五分									
に位置し京漢線に依り北京へ二百七十七料南して漢口へ									
九百三十料石太線により東へ二百三十九料更に石徳線に									

る	と	酷暑甚しく日中攝氏百を越すことも珍らしくない。	れる。	四月下旬より気温漸次上昇し五月末より六月に入	雖も零下四度乃至五度で三寒四温の現象が明確に認めら	氣候は大陸的氣候に属し冬期は寒気甚しくなく極寒期と	むアルカリ性乾燥土壤である。	分に富み成分は主として塩化ナトリウム、硫酸塩等を含	又洪水による沈澱物の黄土の沖積土壤で深く石灰質で塩	ルドス砂漠地帯より吹き来る黄塵の分布により構成され	附近を形成する地質は多く黄河白河の運搬物並に才	依り一百八十料にて津浦線徳縣に結ぶ。
---	---	-------------------------	-----	------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------	--------------------

東亞同文書院大學學生調查大旅行指導室

光緒三十三年（明治四十年）石太線開通し京漢線との交
 又點となるや人口も急激なる増加を見るに至った。
 然るにその後内乱相次ぎ商家の倒産するもの多く一時
 は極度に疲弊したが民國成立後中央は全國に指令を発し
 行政機構の改革を行ひ治安もようやく回復し再び旧に倍
 する繁榮榮を来すに至った。
 昭和十二年支那勃発し同年十月皇軍は破竹の勢を以て
 常市を攻略し日ならびて治安の確立を見、更に民國
 二十八年（昭和十四年）十月獲鹿縣の一部を市に編入
 して独立し市政を布き石家莊の「石」休門（橋東区域の旧名）

三、市街（既成）	又昭和十四年以來北支那方面軍に於ては北支那都市建設事業の一環として支那側建設總署に都市計画を立案実施せしめ之を指導せられつゝある。（都市計画及石津運河について後述する）。	云ふ名ばかりの新しいのみならず都市としての実質を有すものも全て新しいものであつて、新興都市としての登録は未だ全からずと雖も、その将来は實に洋々たるものがあゝと思はれる。	又昭和十四年以來北支那方面軍に於ては北支那都市建設事業の一環として支那側建設總署に都市計画を立案実施せしめ之を指導せられつゝある。（都市計画及石津運河について後述する）。	三、市街（既成）
----------	---	--	---	----------

市街は東は葦城縣と境を接する、東西八支里、南北九	支里、北部突出市街ニ支里全面積は四十三方支里あり、更	に市街は京漢線に依り橋東と橋西の西區に分ち得る。	(1) 橋東方面	事変前は農家が多かつたが事変後は新築市街として発	展し特に邦人の進出が目覺く主なる商社は大概この方面	に見られるが、今や都市計画によつてこれらを全て橋西	方面に移転が目されてゐる。	(口) ^{橋西地区} 華人商家多く、各種の商店銀行市公署旅館等多くこ	の地区に在り、人家稠密し石門市の中心となし大橋街、
--------------------------	----------------------------	--------------------------	----------	--------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------	---	---------------------------

親善街、南大街は殊に繁華にして、活況を呈してゐる。									
四人口									
河北省の人口密度は一平方料一五五人（民國廿五年調									
査）にいて之を日本平均人口密度一四二人に比較すれば									
其差十三人である。									
石太線開通し京漢鉄道との交叉點となるや人口急激に									
増加し昭和十二年皇軍入城當時は五万余に達し、爾來治									
安確立し諸生産事業の整備勦興に伴ひ邦人の進出著レク									
華人も亦治安平定せる地区に避難し來り人口とみに膨脹									
し民國二十九年十月市政を布くに至り、現在總人口約一九									

東亞同文書院大學學生調查大旅行指導室